

第38回諜報研究会稲田明子発表・補講 山本武利レジュメ

◎ 陸軍参謀本部の協力者 勝野金政—リシュコフ—中田光男の人間関係

- 敗戦国の情報機関関係者は過去には寡黙
- 自己に不利なことはしゃべらないことが多い。
- 敗戦国の機関の足跡は公的には整理されることは少ない。
→できるだけ関係者の証言を集め、相互に比較する必要がある。

◎ 中田光男は重要な証言、資料を遺した

○ まとまった証言—日露歴史を記録する会編『記憶のなかの日露関係—日露オーラルヒストリー』彩流社、2017所収の「中田光男」(171—216頁)

○ 各紙、誌へ体験を寄稿

○ 「対ソ宣伝資料」—「中田」の署名のある参謀本部第8課傘下の九段事務所の活動記録、作成資料(主として昭和18年の研究会)、昭和16年の「ソ」宣伝研究機関案の構想・下書きのゲラ刷り・ナマ資料。研究会の事務局責任者として運営の記録を残している。この資料を中田自身は公開していなかった。

この資料を一括して古本屋から入手した山本は、2013年7月13日の諜報研究会で1部分を発表、インテリジェンス研究所ホームページ <http://npointelligence.com/>にそのレジュメを掲載した。

◎ 勝野金政が集約した多数の参謀本部顧問の全面的協力姿勢—第2次大戦直前の対ソ宣伝研究機関の創設案

◎ 勝野インタビュー連載 「歴史と人物」1974年5月号

「参謀本部のなかで」伊藤隆インタビュー構成

1941年4月

【開戦前】

○ 高谷覚蔵、岡田桑三(山内光)、馬場秀夫、吉村柳里などの多彩な顧問グループをまとめたリーダー格が勝野金政—臼井茂樹・武田功・矢部忠太ラインの第8課に強力に操縦された

勝野のまとめたその資料の核心部分—全5頁 タイプ印刷、起案者明記—参謀本部第8課
公認

参謀本部附属対「ソ」宣伝研究機関の機構に就て

昭和16年4月10日

(起案者 勝野)

東亜共栄圏の確立、世界新秩序建設等の大理想実現に邁進しつつある帝国のソ連邦を対象とする宣伝には幾多の組織方法等を必要とするも、開戦期を目標とする参謀本部附属対「ソ」宣伝研究機関の機構は先づ最小限度に於て次の如き研究所を設立し該機構の運営指導に万全を期し以て皇軍の必要を期せざる可からず

○ 研究調査事項

1 民族国家指導理念の学術体系確立

現代哲学、政治、経済、社会、文化等の文化科学を再検討し更に民主主義、社会主義、共産主義、全体主義、其他の政治思潮を批判分析し、これを克服し優越し得る日本精神と民族政治理念を研明し、所謂八紘一宇の肇国理想を学理的に体系化する

2 ソ連国内の実情調査

赤軍、党、コミンテルンの活動、重、軽工業、国営、集団農場、工場労働、社会、文化、宗教、強制労働所、異民族問題外交関係、其他

3 宣伝組織技術の研究調査

宣伝図書室の創設。(内外諸国の新聞雑誌図書小冊子、ポスター、ビラ、写真其他の資料蒐集整備) 宣伝調査室(各国の平時、戦時宣伝組織、技術の研究調査) 宣伝企画立案其他

4 宣伝資料作成

書籍、雑誌、パンフレットの編輯、印刷、出版、各種写真ビラ、ポスター、レコード放送用原稿。乃至は音響宣伝に必要な諸事項並に資料機材の調査、創作準備其他

○ 機構

本機構は参謀本部第二部に所属し課又は班により左の如き組織によって構成される

1 総務部 部員2名

組織の一般的指導運営、人事、外部との折衝連絡

2 研究調査企画部 部員6名 嘱託6名

民族国家指導理念の学術体系確立。ソ連国内の実情調査。宣伝組織、戦術、技術の研究調査。企画立案編輯、其他

3 資料制作部 部員3名 嘱託2名

絵画、写真、印刷、出版、映画、演劇、其他文化宣伝資料の考案及び制作

- 4 音響部 部員 1名 嘱託1名
ラジオ放送、録音、レコード作成並に一般音響宣伝に対する調査研究
- 5 庶務部 部員4名
一般事務会計、雑務其他
- 備考 部員16名 嘱託9名

○ 予算 (円単位)

第一年度実行予算	54,040
1 俸給	28,320
内訳	
総務部	月額 150 1名
	" 100 1名
研究調査企画部	月額 200 3名
	" 150 3名
資料作成部	月額 200 1名
	" 150 2名
音響部	月額 200 1名
庶務部	月額 120 2名
	" 60 2名

- 2 音響手当 (4ヶ月分) 9,440
- 3 事務費 26,280

内訳

研究所借室費	6,000 (但し4室月額500)
家具調度電話購入費	4,000
嘱託員支払費	8,880
研究所維持費	2,000
消耗品支払費	1,000
機密費	2,400
通信交通雑費其他	2,000

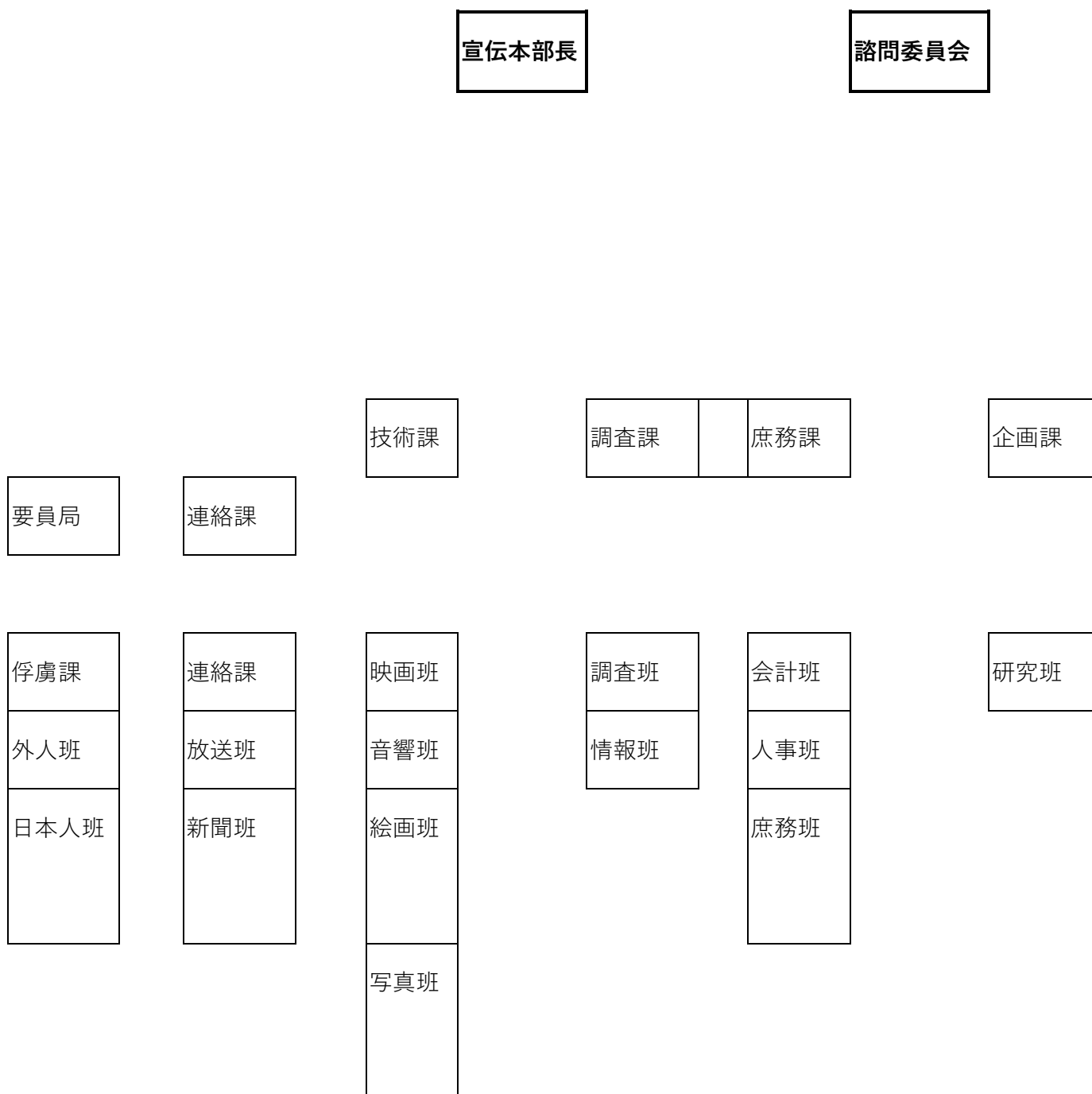
●このかなり精緻な謀略宣伝研究所の設立案は日本陸軍では画期的—陸軍中野学校の構想に匹敵

●対ソ戦必至の状況下での参謀本部ソ連課の立案。同時期は関東軍特殊演習動員数70万の直前

●実名が明記された唯一の資料—参謀本部第8課の承認案件を証左—秋草俊中佐・矢部忠太少佐の幕僚路線で実行

【別添】

●関連資料 手書き資料 ① 宣伝本部の機構図



文書班

整備班

对敵班

占領地班

对外班

对内班

注目点 企画課の充実、諜報謀略・破壊の姿勢が明確

研究班、対敵班（戦線及後方ニ於ル攪乱宣伝ノ企画立案ヲ行フ）、占領地班（占領地ニ於ル懐柔宣伝ノ一切ノ企画）、対外班、対内班

要員養成局の設定

日本人班、対人班、俘虜班

② 対ソ宣伝本部設置ノ件

- 1, 対ソ戦勃発ト同時ニ対ソ宣伝本部（仮称）ヲ設置ス。武力戦以外ノ戦闘手段ヲ以テ戦争完遂ヲ期サンガ為対ソ宣伝ノ一切ノ責ニ任ズ
- 2, 本部ハ大本營ニ直属シテ対ソ戦ニ関連セル我国内外ノ一切ノ宣伝事項ヲ

計画シ並ニ処理ス

● 謀略情報蒐集要目

- 1, 内政問題 2, 外交問題 3, 社会問題 4, 経済 5, 宗教、思想、
生活、風習、文化 6, 主要人物
多様なデシプリンの活用

【開戦後】

静謐姿勢—反映した温和でソフトな対ソ戦準備への協力

1943年3月6日～7月30日 ビラ・放送文案作成

【終戦時】

参謀本部での大物亡命者リュシュコフ利用の姿勢の大転換

- ◎ 亡命当初から終戦まで「マラトフ」情報歓迎
- ◎ 1941年の保護姿勢—矢部忠太少佐作成のロシア語文書にみるリュシュコフの哀れな参謀本部への救命・渡米要請書
- ◎ 1945年8月の参謀本部命令のリュシュコフへの血も涙もない処刑—実行約束の高谷覚蔵の帰国と実行者陸軍中野学校出の将校